

2022 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないでできるだけわかりやすく記述してください。

2022 年度は、以下の海外からの招聘による講演会やシンポジウムを開催し、積極的な活動をおこなった。

1・ダリン・テネフ講演会「指標性が持つ様相の謎——デリダとハイデガーにおける指標についての読解」(2022 年 11 月 4 日、衣笠キャンパス)

ブルガリアのソフィア大学准教授で日本に研究滞在中のダリン・テネフ氏の講演会を、コロナ以後久しぶりの対面およびオンラインで実施した。英語原稿の翻訳とコメントは学内の若手研究者(大学院生)が担当した。講演は、ハイデガー『存在と時間』における指標性がデリダの『声と現象』等においてどのように受け継がれているかを明らかにするもので、その後に活発な質疑と研究交流がなされた。

2・エマヌエーレ・コッチャ講演会「All we need is love」(2022 年 11 月 29 日、衣笠キャンパス)

『植物の生の哲学』や『メタモルフォーゼ』等で注目を浴びているイタリア人哲学者のエマヌエーレ・コッチャ氏の講演会を実施した。講演は、コッチャ氏の最新の関心である「愛」をめぐる独創的な哲学的考察を繰り広げるもので、講演後には有意義な討論がなされた。

3・シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と 20 世紀フランスを中心とするその受容」(2023 年 3 月 25 日、衣笠キャンパス)

ヴァルター・ベンヤミン「翻訳者の使命」刊行100年を機に、この重要な翻訳論がデリダ、ベルマン、ド・マンといった 20 世紀のフランス思想などでいかに読まれ継承されてきたかを考察するシンポジウムを実施した。それぞれを専門とする5名の発表者による充実した発表と討論がなされた。

また、以下の書籍等のかたちで活動成果を公表した。

1・『立命館大学人文科学研究所紀要』No.132(立命館大学人文科学研究所、2022 年 12 月)

この紀要において下記4点の小特集を掲載し、間文化現象学研究センターの 2021 年度の活動成果を公表した。

小特集 1.〈あいだ〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たなはじまり

小特集 2.第 2 回東アジア間文化現象学会議

小特集 3.柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』合評会

小特集 4.『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む

とりわけ 1 と 2 は、ソウル大学校、ウィーン大学、中山大學、台湾国立中央大学の研究者との交流の成果であり、それによって海外ネットワークのさらなる構築を果たした。2 については中国語版も中国にて刊行予定である。

2・加國尚志・亀井大輔編『視覚と間文化性』(法政大学出版局、2023 年 3 月)

この論集は、マーティン・ジェイの視覚思想史の大著『うつむく眼』に対する日本の研究者からの応答として、さまざまな哲学者や思想家における「視覚」の意義を解明したものである。2014 年度以来継続的に翻訳やシンポジウム等を通じて展開していた『うつむく眼』をめぐるこれまでの研究活動にもとづく最終成果として、立命館大学学術図書出版推進プログラムによる助成を得て、公表した。執筆には間文化現象学研究センターの学内メンバー10名が含まれる。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2023年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	亀井 大輔	文学部	教授	
運営委員	谷 徹	文学部	特任教授	
	北尾 宏之	文学部	教授	
	伊勢 俊彦	文学部	教授	
	加國 尚志	文学部	教授	
	林 芳紀	文学部	教授	
	鈴木 崇志	文学部	准教授(任期制)	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	佐藤 愛	言語教育センター	嘱託講師	
	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教	
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授	
	長澤 麻子	文学部	教授	
	辻 敦子	文学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	小田切 建太郎	衣笠総合研究機構	専門研究員
		松田 智裕	衣笠総合研究機構	専門研究員
		有村 直輝	文学研究科	初任研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント	蛭子 良風	文学研究科	博士課程後期課程
		査 雨萌	文学研究科	博士課程後期課程
	大学院生			
	学振特別研究員 (PD・RPD)	吉松 覚	立命館大学	学振特別研究員 RPD
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師	
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
	平尾 昌宏	文学部	非常勤講師	
	小西 真理子	文学部	授業担当講師	
	川瀬 雅也	文学部	授業担当講師	
	松葉 祥一	文学部	授業担当講師	
	宮原 優	文学部	授業担当講師	
	丸橋 裕	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻	非常勤講師	
	浅沼 光樹	文学部	授業担当講師	
客員協力研究員	川崎 唯史	熊本大学大学院生命科学研究部	助教	
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授	

	黒岡 佳証	中国福建省福州大学外国語学院日本語学科	教員
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	赤坂 辰太郎	人文科学研究所	客員研究員
	DALISSIER Michel	金沢大学国際基幹教育院	准教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻	教授
	宮崎 裕助	専修大学文学部	教授
	榊原 哲也	東京女子大学現代教養学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	池田 喬	明治大学文学部	教授
	中澤 栄輔	東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野	講師
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域人間科学系	准教授
	藤木 篤	神戸市看護大学看護学部人間科学領域	准教授
	吉川 孝	高知県立大学文化学部	准教授
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
	西山 雄二	首都大学東京人文科学研究科	教授
	馬場 靖人	早稲田大学総合人文科学研究センター	招聘研究員
	伊吹 友秀	東京理科大学理工学部教養	准教授
	杉本 俊介	慶応義塾大学	准教授
	酒井 麻依子	日本学術振興会(筑波大学)	特別研究員(PD)
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学	講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員 計 52 名 (うち学内の若手研究者 計 6 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	加國尚志	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 183~202
2	亀井大輔	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 3~10, 289~307
3	長澤麻子	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 41~70
4	田邊正俊	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 71~94

5	神田大輔	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 11～39 (翻訳)、117～140
6	黒岡佳柁	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 141～161
7	青柳雅文	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 163～182
8	佐藤勇一	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 203～224
9	鈴木崇志	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 225～244
10	横田祐美子	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 245～266
11	松田智裕	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 267～287
12	日暮雅夫	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 309～334
13	川瀬雅也	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. iii～ix、3～27、247～255、295～297
14	加國尚志	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 97～108
15	佐藤勇一	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 175～180、276～278
16	亀井大輔	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 220～228
17	松田智裕	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 279～282

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	谷徹	間文化現象学研究センター 記念会議講演へのコメント	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 33～46	有
2	鈴木崇志	フッサールにおける共同精神と歴史的世界	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 133～150	有
3	辻敦子	「抑圧された者たちの歴史」へのパッセージ——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』を読む——	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 205～217	有
4	黒岡佳柁	死者と共に生きる歴史——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 219～238	有
5	亀井大輔	問いとしての「メシア的なもの」——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 239～252	有
6	柿木伸之	断絶からの歴史の展開のために——『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に対する批評に答えて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 253～273	有
7	青柳雅文	トランプの時代とアドルノの「文化産業」論	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 281～302	有
8	亀井大輔	巻頭言「小特集1：〈あいた〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たなはじめ」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 1～3	有

9	亀井大輔	巻頭言「小特集2：第2回東アジア間文化現象学会議」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号	PP. 47~49	有
10	加國尚志	巻頭言「小特集3：柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』合評会」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号	PP. 203~204	有
11	日暮雅夫	巻頭言「小特集4：『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号	PP. 275~279	有
12	神田大輔	ゲオルク・シュテンガー「〈あいだ〉から〈変形〉への往還——普遍主義と個別主義およびグローバル性とローカル性を越える新たな動き——」	単訳	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号	PP. 5~32	有
13	亀井大輔	第2回東アジア間文化現象学会議と間文化現象学・国際シンポジウムの開催報告	単著	2022年11月	日本現象学会, 現象学年報, 38号	PP. 83~88	無
14	谷徹	超越論的な哲学とより超越論的な哲学	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 9~44	無
15	加國尚志	密着における乗り越え——メルロー＝ポンティ『パロールの問題 一九五三—一九五四年コレージュ・ド・フランス講義 ノート』についての考察	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 45~64	無
16	亀井大輔	一九七〇年代におけるデリダのベンヤミン読解について	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 65~78	無
17	林芳紀	ドーピングのハームリダクションの可能性	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 79~96	無
18	鈴木崇志	フッサールの享受論	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 97~108	無
19	酒井麻依子	主体形成とアイデンティティの「引き受け」	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 109~119	無
20	杉本俊介	カントと Why be moral? 問題——北尾宏之先生の著作に基づいて	単著	2022年12月	立命館大学人文学会、立命館文學、680号	PP. 137~148	無
21	加國尚志	加藤周一の「眼」と「耳」	単著	2023年3月	加藤周一現代思想研究センター報告、立命館大学衣笠総合研究機構 加藤周一現代思想研究センター、準備号	PP. 21~30	無
22	亀井大輔	デリダと虚構性の問い——歴史、証言、嘘	単著	2022年4月	哲学、日本哲学会、73号	PP. 25~36	無

3. 研究発表等						
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名	
1	長澤麻子	ベンヤミンと詩の言語 Die Aufgabe des Übersetzters の成立「環境」をめぐって	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス		
2	柿木伸之	言語の死後の生へ——ベンヤミンの「翻訳者の課題」とその継承	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス		
3	西山雄二	フランスにおける「翻訳者の使命」の受容——アントワヌ・ベルマンによる純粋言語と翻訳不可能性の解釈をめぐって	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス		
4	亀井大輔	ベンヤミンを（翻訳）するデリダ——「バベルの塔」について	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス		
5	宮崎裕助	永遠の乖離としての純粋言語——ポール・ド・マンのベンヤミン「翻訳者の使命」読解	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス		
6	亀井大輔	近さと遠さ——コロナ禍における現前性の問題	2022年10月	シンポジウム「人文・社会科学の意義を見つめ直す——感染症、戦争、災害等の「グローバルなリスク」に立ち向かう〈知〉のために」立命館土曜講座、オンライン		

7	鈴木崇志	価値と他者はどのように経験されるか——現象学的アプローチ	2022年11月	2022年度関西倫理学会シンポジウム「現象学と倫理学」、 大阪大学豊中キャンパス	
---	------	------------------------------	----------	---	--

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ダリン・テネフ講演会「指標性を持つ様相の謎——デリダとハイデガーにおける指標についての読解」	衣笠キャンパス	2022年11月	対面 20名 + オンライン 20名	科研費・基盤 B、立命館大学人文科学研究所
2	エマヌエーレ・コッチャ講演会「All we need is love」	衣笠キャンパス	2022年11月	50名	立命館大学人文科学研究所
3	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか——ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」	衣笠キャンパス	2023年3月	30名	科研費・基盤 B、立命館大学人文科学研究所

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	Daisuke Kamei	Jacques Derrida and Shūzō Kuki: On Contingency and Event（講演）	GIP Lectures 2023: Phenomenology, Gesellschaft für Interkulturelle Philosophie	2023年1月～2023年1月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	亀井大輔	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
2	鈴木 崇志	「二人称の他者」の現象学：その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
3	伊勢俊彦	日常的思考と行動の基盤の不安定化・喪失からの回復にかんする哲学的研究	基盤研究（C）	2020年4月	2025年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立命太朗	〇〇に関する研究	△△財団・若手研究者奨励金	2014年5月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太朗	特許（国内）	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本